All Rikkyo Tennis

立教大学体育会テニス部部報

発行所
立教大学体育会テニス部
〒171　豊島区西池袋３丁目
電話　(3985) 2680
発行人　神藤浩史

目指せ２部昇格!!

～男子部・女子部合併成る～

立教大学テニス部の新体制を

テニス部部長　栗原　謙二

一九九六年四月一日より立教大学体育会庭球部と女子硬式庭球部が合併致しました。これは両部の現役学生の強い要望とＯＢ会長を始めとするＯＢの皆様の深い理解のお陰だと思います。その後の関東大学テニスリーグでは男女共３部に昇格することができまして、各試合ごとの監督、コーチ、学生、ＯＢの熱気が未だ覚めやらぬ感じです。

立教大学テニス部は旧部の長い歴史に比べ一年もたっておりません。部の体制と運営をこれから一つの部としてどのように作っていくかがこれからの大きな課題だと考えています。全員が一丸となって２部を目指したいと思います。なおテニス部の部長と副部長は舟田先生と栗原がなりました。長い間女子硬式庭球部の副部長をしていただきました淡路先生に深く感謝致します。

新生「テニス部」の活躍を期待する

テニス部副部長　舟田　正之

懸案であった男子と女子の統合が成り、部の名前も「テニス部」となったことは、大変結構なことであると思います。

男子と女子は、試合の日程など異なる事情も多いので、それぞれ独立して活動する場面と、両者が協力し、あるいは一緒に活動する場面とがあるでしょう。お互いの事情をよく理解し合い、統合のメリットを生かすように工夫して下さい。

立教大学は、この度、新学部の設置を文部省に申請し、新座校地が更に充実されることとなるでしょう。また、池袋校地の過密解消と再開発も、少しずつ動いています。入試方式の多様化も、更に拡大されるのではないかと予想されます。その中で、コートやその他の体育施設の充実なども含め、栗原先生と協力して、部の活動を側面から応援していきたいと考えています。

更なる飛躍を

テニス部ＯＢ会会長　岸本　駿二

今年四月に男子・女子庭球部がテニス部として合併。男女揃って昇格の快挙を成し遂げ、六月の総会でＯＢ・ＯＧ会がセントポールテニスクラブとして一本化されました。誠に喜こばしい限りで心から祝福致します。

庭球部創部は一九一六年、ただし当初は軟式で、硬式としての活動は一九二〇年からと記録されていますので、その時点を元年とすれば今年度で満七十七年となります。このような長い歴史の中でも今年は大変意義深い年であったと言えそうです。

硬式テニス創部八十周年を迎える三年後の一九九九年には、男女が揃って更に上位リーグで大活躍！そんな夢を現実のものとするよう、部活動支援体制を一層力強く充実したものにしなければならないと考えます。ＯＢ・ＯＧの皆さまの絶大なるご協力をお願い致します。

3部昇格、合併おめでとう

テニス部ＯＢ会副会長　八木下紗絵子

永年の願望であった合併が、ここに来て急に実現の運びとなり女子一同大変よろこんでおります。すべて事には時期とタイミングが必要と云うことを実感いたしました。

今年は3部昇格、合併といいことずくめです。現役がいてこその「セントポールテニスクラブ」これからは伝統のあるテニス部を大いに応援していこうと思います。たくましくたよりがいのあるＯＢとご一緒出来、今まで皆んなで苦労して来たかいがあったと感謝の気持ちでいっぱいです。合併に関して永年御苦労をおかけした諸先輩方に厚く御礼申し上げます。

3部昇格おめでとう　更なる飛躍を！

テニス部ＯＢ会理事長　豊田　資朗

坂道を転げ落ちるように、5部に転落し、もう後が無かった。しかし学生達は屈辱感に耐え、意地があった。過去の栄光や見栄外聞をかなぐり捨て、全員が「昇格」という目標に向って練習に打ち込む姿に、向上心と闘争心も残っていた。監督、コーチの熱心な指導に謙虚に耳を傾ける姿は学生本来の明るさと素直さが甦って来た。

四月二十八日、いよいよ一年間の総決算とも言える神奈川大学との入替戦は青空のもと風が巻いていた。ＯＢ五十数名の大応援団も大変心強かったが、それにも増して監督、コーチそして現役に「輝やき」があった。ダブルスでは競り勝ち、午前中を2対1とし、散水の陣で臨んだ神大であったが、当校の勢いには勝てず、6対3で3部昇格を果すことが出来た。

当校が3年間で2度昇格を味わうことが出来たのは、現役とＯＢとの一体感が大きな原因であると思う。一年を振り返ってみると、暑い日も寒い日も少ない部員、技術的に未熟な部員に誠心誠意指導をしてくれた鷲田監督、又、藤井、山田両コーチは今なすべき事は何か、そして今なすべきことにどれ程打ち込んでいるだろうか、という技術、精神の両面を学生達に教えてくれた。もちろん現役も良く耐え、頑張ってくれた。その結果、学生達はそれぞれ与えられた仕事に使命感を持ち、3部昇格を勝ち取った。これは全員参加による勝利であると確信している。

一昨年迄5部リーグトーナメントで戦っていた女子部も広瀬監督の地道な指導が実り、昨年4部に昇格し、本年も入替戦を勝抜いて、3部昇格を果し、テニス部の合併に花を添えた。来年も充分2部を狙える戦力を備えているので、お互に切磋琢磨し、技術の向上につとめてもらいたいと思う。

私が理事長として現役に望むことは、テニスを通じて、技術と精神の両面を鍛え、強靭な精神と思いやりのある豊かな人間になって欲しいと思う。

終りに、今回のリーグ戦並びに練習試合に多くのＯＢの方々の御支援、御声援をいただき、御礼申し上げます。

「3部昇格をして」

男子監督　鷲田　典之

平成八年度のリーグ戦は、「今年は負けられない。絶対に3部昇格をするんだ。」という強い思いが良く出たリーグ戦でした。

第一戦の明学戦は、初戦という事もあり緊張した空気の中で行われ、岡が明学№1に敗れはしたものの、久々湊が彼自身にとってのリーグ戦シングルス初勝利を挙げ6対3で勝ち、まずまずのスタートを切りました。

第二戦の成蹊戦は、阿部・岡のダブルスが大激戦の末に勝ち、シングルスでは岡と久々湊が大接戦を制し、結局7対2で勝ちチームは上昇気流に乗ってきました。第三戦の千葉商には、昨年の初戦で敗れているという事もあってチーム全員が雪辱に燃えていました。ダブルス1対1の後、粂田・村木組が接戦を物にし、シングルスでも岡が熱戦を制し、6対3で昨年の雪辱を果たしました。

第四戦の東大戦は、技術的にはかなり立教の方が上でしたが、さすがに東大は粘り強く、終ってみれば5対4の接戦となってしまいました。4部リーグ最終戦の相手は明海大学で、ここはセレクションで選手を集めているクラブチームの寄せ集め的なチームで、実力はあるもののチームワークは今一つ、という我がチームにとっては負けたくない相手でした。しかし、ダブルスでは久々湊・若狭組がファイナルセット5－2リードから逆転負けし、1対2とリードされ嫌なムードが漂う中、雨で試合開始が遅れていた為、シングルスは翌日へ順延となりました。シングルスでは、阿部と岡が大接戦を制し、吉崎もリーグ戦シングルス初勝利を挙げ5対1とし、結局6対3で勝ち、4部リーグ優勝を決めました。

入れ替え戦となった神奈川大戦は、多数のＯＢが見守る中、各試合とも接戦となりましたが、ダブルスで粂田・村木組、阿部・岡組が勝ち2対1とし、シングルスでもこの4人がポイントを挙げ、6対3で勝ち3部昇格を果たす事ができました。これも一偏に部員一同の頑張りとそれを応援して下さっている栗原テニス部長やＯＢ会のお陰と深く感謝しております。来年は3部という事もあり、厳しい戦いを強いられるとは思いますが、部員、スタッフ一同一丸となって2部昇格を目指し練習に励みますので、今後共ＯＢの方々の御支援、ご鞭撻をお願い致します。

最後になりましたが、今年も本当に良く指導をしてくれた藤井・山田両コーチ、また、いつも我々現場をバックアップして下さっている岸本会長、豊田理事長、そして浅見委員長を始めとする強化委員の方々や諸先輩の方々、本当にありがとうございました。誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

男子部、女子部合併に関して

女子監督　広瀬　省蔵

基々一緒に活動していた女子部が独立したのが約三十五年位前、当時は男子部員も多く、一学年に十名づつ位いた時代でもありました。私の頃、三十七、八年は男子部から一名コーチとして派遣していたころもしばらくありましたが、男子部の部員も徐々に減り、その制度もいつのまにか無くなったようです。その後、ＯＧの方、ＯＢの関係者等に色々アドバイスを受けながら女子部として独立独歩歩み、昭和五十年過ぎた頃から、私と同期の末藤（現役時代女子コーチ）が監督として見るようになりました。彼は学生の頃から理論派でよくテニス談義をした間柄でした。教え方も非常に熱っぽく一人一人に一生懸命で、自分の生活もほっぽり出して教えるようなタイプの人間です。昭和六十年頃に彼が九州にもどるという事で、私がバトンタッチすることになりました。彼の様には出来なく、少し困った時期もありました。しかし自分がやれるペースでしか出来ない事を理解してもらい、私なりに十三年も続いてしまいました。不思議なものでやり始めると、その代その代で色々と特徴があり目が離せないものとなります。

この度、男子、女子合併の話があり、現役も各々人数も少なく、学内・学外共に立教大学テニス部のアピール、また、ＯＢ・ＯＧ共に現役のバックアップする力を倍増する意味においても結構な事と思い、立場柄、仲人役として推進させていただきました。岸本会長はじめ、栗原先生、舟田先生、八木下ＯＧ会長、豊田理事長、その他ＯＢ・ＯＧの方々に援助してもらいながら、また現役と相談、打合せしながらスムースに運べた事を心からうれしく思います。今後私もいつまで監督を続けて行けるかわかりませんが、父が長い間、関西大学の監督をやっていた事も見ておりましたし、現役時代、また社会人になっても色々とお世話になった諸先輩の恩返しのつもりで出来るだけ頑張りたいと思います。ＯＢ・ＯＧの皆様もセントポールテニスクラブを盛り上げ、現役をサポートすると共に我々も大いに楽しみたいと思います。特に若いＯＢ・ＯＧの方には楽しい企画をどしどし提案して下さい。

益々の御支援のほどよろしくお願い致します。

平成八年度 関東大学テニスリーグ リーグ戦結果

明学戦（第一戦）

本学6（D2－1、S4－2）3明治学院大学

明治学院大学のコートでついに我々の3部昇格に向けてのリーグ戦の幕は切って落とされた。去年の4部残留という我々にとっては納得のいかないそして悔しかった思いを胸に抱き一年間練習をしてきた。この日のために辛い練習をしトレーニングもしてきたのだ。今、この思いをボールに伝え存分にぶつけ練習の成果を試すときが来たのだ。我々は自信に満ちあふれ闘志は燃え上がっていたが不安もあった。

ダブルスの試合が始まった。No.1とNo.2は実力の差をみせつけ2セットを連取しストレートで勝った。No.3は相手の実力はNo.1のダブルスに自分達の力を発揮したが競りながらも惜しくもファイナルセットで負けてしまった。本学は2対1でシングルスの試合へ突入した。初めNo.2、No.4、No.5が入った。No.2とNo.4は勝ったがNo.5は競りながらも負けてしまった。そしてNo.6とNo.1は勝ったがNo.3は競ったが惜しくも負けてしまった。シングルスの結果は4対2で本学は6対3で勝利を得たのだ。

しかし、我々はこの勝利で喜びの表情は見せなかった。そうなのだ、我々の目標は全勝し入替戦で勝ち3部へ昇格することなのだ。この一戦はその目標へのワンステップにすぎないのだ。我々は誰もが満足した様子は見せず緊迫した気持ちでした。しかし不安は取り除かれ一年間我々がしてきたことは強い自信へと変わった。我々は3部昇格への道を力強く歩み始めた。

三年　吉崎　太二

成蹊戦（第二戦）

本学7（D2－1、S5－1）2成蹊大学

初戦を6対3で快勝した本学だが、あくまで挑戦者として第二戦を迎えた。特に私はこの一年をテニスに捧げ、昨年の全敗の雪辱と、昨年はどんなに頑張ってもどうしても手に入らなかった勝者としてコートに立っている、という念願を果たしたかった。

その思いとは裏腹にダブルスはストレートで敗退し本学から2対1で折り返した。シングルスを控え心の中で、もし負けたら……大丈夫いける等々の葛藤を乗り越え、太陽が頂点に達し、私の気持ちも最高潮に達した頃試合は一斉に始まった。

相手は完璧で私は手も足も出ず途中で左膝じん帯をひどく痛める不運にも見舞われ、押されっぱなしのまま試合は進んだ。

中盤から緩いムーンボールを相手の弱点であるフォアに送りこむ作戦をとり、チャンスをじっと待った。次第に相手はいら立ち、セカンドの第九ゲームを初めてブレークしてから流れは一気に私に傾いた。二人の立場は入れ替わった。ファイナルは完璧だった。私はゲームの全てを支配し、相手は事の終わりを待っただけだった。念願の勝利の瞬間、私は両手を大きく上げ無我夢中で雄叫び歓喜を爆発させた。

私はどんな時も、調子に乗ることもなく、変に落ち込むこともなくただひたむきに試合をしただけだった。そして心の底では何があっても自分は大丈夫、やれないことはないと決してあきらめない姿勢の大切さを実践できたと思う。

四年　久々湊仁彦

千葉商戦（第三戦）

本学6（D2－1、S4－2）3千葉商科大学

「雪辱」という言葉が、私の頭の中から離れることはありませんでした。一年前のリーグ戦の初戦で立教大学は、千葉商大と戦い、はじめのダブルスを3本とられてしまったのでした。自分は泣きました。泣きまくりました。そしてシングルスNo.6で登場して、勝ち星をあげました。しかしチーム自体は、3勝6敗で初戦に敗れました。暗くそしてつらい経験をしました。

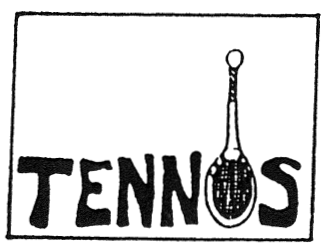
あれから一年がたち、「雪辱」そして立教の名誉を取り戻すためにも、千葉商大に勝って、3勝目をすることは実に大きな意味がありました。

「ダブルス」において、3勝でシングルスにもっていくことが目標でしたが、一本落として2勝1敗で、シングルスに突入。自分の脳裏には、去年の思いや、今年も負けたらどうしようといった弱気な思いも少しありました。しかし自分は、今までやってきたこと、いろいろなことを乗り越えてきたことを頭の中でいっぱいにすることで、そのような弱気な気持ちを打ち負かし、シングルスNo.5で、いちはやく勝ち星をあげました。

「どうだ見たか！」と相手校に言いたいほど、興奮しました。

結果は立教から6勝3敗。立教大学は、この第三戦から、更に勢いをつけていきました。やればできるんだ。やらないと結果は出ないんだ、ということを体験し、そしてこの経験を生かし、今年は二部昇格を心に宣言したいと強く思います。

三年　岡　利之



第１戦

明治学院大学			VS	立教大学		
複	No.1		二ノ宮・渡邉	0－6，1－6	粂田・村木	○
	2		下澤・山内	1－6，3－6	阿部・岡	○
	3	○	秋田・小南	6－3，5－7，6－1	久々湊・若狭	
単	No.1		吉岡　健	1－6，0－6	粂田博史	○
	2		二ノ宮英義	0－6，0－6	村木祐介	○
	3	○	秋田邦治	7－5，7－6(4)	吉崎太二	
	4		下澤正明	2－6，5－7	阿部宏	○
	5	○	小南竜太	1－6，7－5，6－3	岡利之	
	6		山内政樹	2－6，1－6	久々湊仁彦	○
14			3	複 1－2 / 単 2－4	6	6

第２戦

成蹊大学			VS	立教大学		
複	No.1		折田・田口	2－6，0－6	粂田・村木	○
	2		佐藤・兼古	2－6，2－6	阿部・岡	○
	3	○	中島・関根	6－4，6－4	久々湊・若狭	
単	No.1		松平和大	0－6，0－6	粂田博史	○
	2		兼古洋一郎	1－6，1－6	村木祐介	○
	3		関根栄和	4－6，4－6	阿部宏	○
	4	○	佐藤　秀	6－2，3－6，6－1	吉崎太二	
	5		折田純一	1－6，6－1，5－7	岡利之	○
	6		中島英輔	6－3，4－6，0－6	久々湊仁彦	○
15			2	複 1－2 / 単 1－5	7	6

第３戦

千葉商科大学			VS	立教大学		
複	No.1		沢村・角辻	4－6，4－6	粂田・村木	○
	2		中村・利根川	3－6，2－6	阿部・岡	○
	3	○	松戸・吉川	6－3，6－1	久々湊・若狭	
単	No.1		宮脇　健	1－6，2－6	粂田博史	○
	2		角辻成寿	4－6，4－6	村木祐介	○
	3	○	沢村和秀	6－0，6－3	吉崎太二	
	4		吉川智晴	4－6，3－6	阿部宏	○
	5		中村正典	3－6，1－6	岡利之	○
	6	○	松戸竜太	6－1，6－4	久々湊仁彦	
12			3	複 1－2 / 単 2－4	6	6

	東京大	千葉商科大	立教大	明治学院大	明海大	成蹊大	勝敗	勝点	勝ポイント	失セット	順位
東京大		3－6	4－5	3－6	2－7	7－2	1勝4敗	1	19	56	⑤
千葉商科大	6－3		3－6	8－1	2－7	8－1	3敗2敗	3	27	40	③
立教大	5－4	6－3		6－3	6－3	7－2	5勝0敗	5	30	35	①
明治学院大	6－3	1－8	3－6		4－5	6－3	2勝3敗	2	20	60	④
明海大	7－2	7－2	3－6	5－4		6－3	4勝1敗	4	28	42	②
成蹊大	2－7	1－8	2－7	3－6	3－6		0勝5敗	0	11	73	⑥

東大戦（第四戦）

本学５（D２－１ S３－３）４東京大学

今年のリーグ戦は、前評判から本学と明海大学が頭一つ抜きでていた。本学、明海大学とも３勝ずつしていた。この第四戦の東大戦を完勝して最終戦の明海戦に臨みたいとチーム全員が思っていた。

そして、第４戦の東大戦が始まった。本学は４部の中では、唯一関東学生の資格をもっていた。資格者は私と村木である。ということは、No.１・２固定ということである。４部で資格者がいれば、試合は担当本学が有利になる。なぜならNo.１・２を相手校がはずしてくるからである。しかし、この東大戦では私にとってはちょっと勝手が違ったのである。

試合はダブルから始まった。私はNo.１で村木と組み６－０、６－０というスコアで圧勝した。No.２の阿部さんと岡もストレートで勝ち、No.３は相手のNo.１とあたり、久々湊さんと若狭さんは惜しくもファイナルで負けてしまった。結果ダブルスは２－１で折り返した。

しかし、シングルで番狂わせが起きてしまった。No.６の久々湊さんとNo.４の阿部さんが負けてしまったのである。No.５の岡・No.２の村木は勝ち、No.３の吉崎は負け、私は４－４で回ってきたのである。いくら相手が格下ではあるとはいえリーグ戦である。ちょっとの油断が大怪我を招くかもしれない。しかし私はこの試合にきっちり勝ち、本学は５－４で勝った。

この勢いで最終戦も勝ち、入替戦も勝って、３部昇格をもぎ取ると心に誓った。

三年　粂田　博史

リーグ最終戦（対　明海戦）

本学６（D１－２ S５－１）３明海大学

『リーグ戦23連勝中』圧倒的な強さを誇る明海大との最終戦は、これからの立教を変えて行くだろう一戦となった。４時間を超えた私と久々湊組の試合は、勢いに乗った明海を止める事ができなかった。「立教Leads５－２in ３rd」というコールをかき消す歓声が響き渡る程、私達は有利に試合を進めていたが、たった１本のミスから始まり逆転負け。そんな悔しさを感じながら日没となった。そして次の日に持ち越しとなったシングルス。私は「勝敗けより、応援も選手もその１ポイントを最高のプレイができるよう祈ろう。」という言葉で選手を送り出した。岡が１stを阿部が２ndを取られ、明海の勢いは最高潮に達していた。しかし奇跡は起こった。昨年のリーグ帝京戦で完敗し、「情けなくて涙も出ない」と悔しがっていた阿部は、３rdで全てのプライドを捨て、ただ一年間やってきた事を信じ、勝利をおさめた。その活躍は部員全員の心を動かした。私の前で「リーグで勝つ自信がない」と涙を流して悔やんでいた吉崎が、来年のリーグにとって大きな希望となる一勝をもぎ取ったのである。『結果は後から付いてくる。』気がつけば、シングル５－１がついていた。最後に、私のようにこの富士見で初めてテニスをし、３年間のほとんどを部の下積みに費やしてきた奴でも、リーグ優勝のレギュラーになれるんだという事を、そしてそういう奴の努力が部にとって、リーグにとって必要だということを後輩達に言いたい。

四年　若狭　信治

入替戦

本学６（D２－１ S４－２）３神奈川大学

昨年４部４位となり悔し涙を飲んでから一年、ついに我々はその雪辱を果たす時が来た。５戦全勝と勢いに乗っている本学はこの一戦に、恐れず侮らず全力を尽くすのみであった。

私は、オーダー表に一文字一文字「絶対勝つ」という気持ちで書き入れ、主将阿部に手渡し、歴史的な一日が始まったのである。ダブルスでは久々湊・若狭ペアが破れはしたのもの、村木・粂田ペア、阿部・岡ペアは着実にポイントを重ね勝利し、２対１で折り返した。シングルスでは神大も三部校の実力を発揮し久々湊は敗れ、阿部、岡共に苦戦を強いられていた。しかし、二十人を超すOBの応援とそれに支えられプレーする選手達の気迫が次第に神大を追いつめていったのである。

阿部は相手の強烈はストロークを切り返し、ネットプレーでポイントを重ね、接戦の末勝利した。隣のコートでは岡が吠えていた。岡の魂を込めた一球一球が劣勢を挽回し、逆転勝ちを導いた。続く吉崎は敗れたが、粂田、村木は共に力の差を見せつけ相手を圧倒していた。そしてついに、村木の相手のストロークがベースラインを割った瞬間、全員がガッツポーズをし、大歓声を上げて喜んだ。皆の顔には最高の笑顔と涙があり、勝利を共に分かち合った。

閉会式で学連により「立教大学の３部昇格が決定しました。」と宣言され、平成八年度リーグ戦は幕を閉じたのである。

四年　神藤　浩史

第４戦

立教大学			VS 東京大学			
複	No.1	○	粂田・村木	6－0，6－0	杉村・多田	
	2	○	阿部・岡	6－2，6－1	川崎・高橋	
	3		久々湊・吉崎	4－6，6－4，0－6	原・入沢	○
単	No.1	○	粂田博史	6－2，6－0	林晃資	
	2	○	村木祐介	6－0，6－1	徳岡喜一	
	3		吉崎太二	3－6，1－6	原雄一郎	○
	4		阿部宏	4－6，2－6	入沢寿史	○
	5	○	岡利之	6－2，6－0	川崎博久	
	6		久々湊仁彦	5－7，6－7(3)	高橋直希	○
8			5	複 2－1 / 単 3－3	4	11

リーグ最終戦

立教大学			VS 明海大学			
複	No.1	○	粂田・村木	6－3，6－4	渡辺・橋詰	
	2		阿部・岡	4－6，1－6	石井・佐藤	○
	3		久々湊・若狭	7－6(5)，3－6，5－7	鷲頭・加藤	○
単	No.1	○	粂田博史	6－1，6－0	小磯尚義	
	2	○	村木祐介	6－1，6－3	鷲頭信	
	3	○	吉崎太二	2－6，6－4，6－4	加藤重人	
	4	○	阿部宏	6－2，6－7(4)，7－5	佐藤弘康	
	5	○	岡利之	3－6，6－2，6－3	橋詰渉	
	6		久々湊仁彦	3－6，5－7	石井貞人	○
9			6	複 1－2 / 単 5－1	3	13

入替戦

神奈川大学			VS 立教大学			
複	No.1		菊地・中上	0－6，3－6	粂田・村木	○
	2		野口・古籏	6－7(3)，5－7	阿部・岡	○
	3	○	酒井・元村	6－1，6－3	久々湊・若狭	
単	No.1		古籏隆善	0－6，2－6	粂田博史	○
	2		肥田康弘	0－6，0－6	村木祐介	○
	3		元村伝	1－6，4－6	阿部宏	○
	4	○	酒井雄一	6－1，6－0	吉崎太二	
	5	○	野口周作	6－4，7－6(5)	久々湊仁彦	
	6		菊地義一	6－2，1－6，2－6	岡利之	○
12			3	複 1－2 / 単 2－4	6	7

取扱車種
センチュリー、セルシオ、クラウン、アバロン、ソアラ、マークⅡ、エクシヴ、コロナ、キャバリエ、カルディナ、イプサム、コルサ、サイノス
クラウンバン、マークⅡバン、カルディナバン、ハイエース、トヨエース、ハイラックス
アウディ、フォルクスワーゲン(DUO店扱い)

東京トヨペット株式会社
本社・〒108 東京都港区高輪3-23-10 ☎03-3443-1111(大代表) Fax.03-3445-5701
⊙お客様相談コーナー (フリーダイヤル) 0120-451117(都内のみ)

キメ細かく
強力にバックアップします

テレビ・ラジオ広告　新聞・雑誌広告
カタログ　チラシ　ポスター　PRビデオ
展示会　ショールーム　ネオン・屋外広告
スポーツ・文化イベント　店舗・商業施設
カレンダー　手帳　映像ソフト

株式会社 アド・メルコ
本社　東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル
支店　札幌・仙台・横浜・名古屋・金沢
大阪・広島・高松・福岡

常任相談役　岸本　駿二（S27年）
TEL 03-3475-3160

CEC
株式会社　建設工業社
〒150　東京都渋谷区渋谷3-27-13
TEL 03-3409-9511　FAX 03-3409-9516

営業種目
特許小宮山式　スプリンクラー装置
特許CEC式　屋内外自動消火栓
各種消火設備設計施工
自動火災報知設備設計施工
各種消防設備保守点検

営業分室	TEL 03-3445-4411	FAX 03-3445-4412
山形営業所	0236-31-3103	0236-31-3153
仙台営業所	022-273-4812	022-271-9634
横浜出張所	045-316-7531	045-316-7532
大阪店	06-864-4532	
工場	0482-22-5870	

32年卒　小宮山　和　知

第一戦

本学５（Ｄ２－０　Ｓ３－２）２横浜国立大学

第一戦は、池袋の新学院テニスコートで行われた。入学式のその日、新入生の新しい風に乗り、心地良い緊張のなかで試合がはじまった。横浜国立大学は、昨年、３部より４部へ降格したチームであり、３部で戦ってきたメンバーがかなり残っているために、苦戦が想像されていた。しかし、試合が始まってみると、相手校は、元気があり、諦めないが、勝負強さでは、立教が勝っていた。結果は、ダブルス２－０と圧勝であった。ダブルス終了後、良い雰囲気でシングルスの試合に入ることができた。相手校は、シングルスを全部勝つという意気込みで来た。２年生は、強気で勝ち抜いたが、１年生は、リーグ戦という特別な試合に、精神的な部分で圧迫されて、自信なく戦っているのが気になった。足の怪我で、１試合Retになり、主将の柳が、フルセットの末に敗れたが、フルセットを戦ったガッツに、次の試合に期待が持たれる内容だった。ともあれ、初戦を５－２と圧勝できたことで、波に乗れるように思われた。下級生中心のレギュラーのために、まだ精神的に弱い部分を、それ以外のメンバーで補い、部員一丸となって勝利を手にする基礎ができつつあった。そして、横浜国立大学の選手達の、諦めない姿勢と元気の良さを、今後、私たちのチームの参考として、これからの試合に挑んでいこうと心に誓った。

四年　武田　理恵

第二戦

本学６（Ｄ２－０　Ｓ４－１）１創価大

横浜国立大学との第一戦を５－２で勝ち、部の雰囲気も勢いにのる中、第二戦、創価大学との試合を迎えた。当日、天候もよく、ダブルスの試合が始まった。No.２の尾又、山崎が、まだ第二戦ということもあり、緊張したせいか、ミスが目立ち、ファーストセットを５－１とリードしていたのだが、５－５にまで追い込まれた。創価大学で試合が行われたこともあり、相手校の応援に押されつつあったのだが、そこから何とか２ゲームを連取した。そのままセカンドセットも取り、ダブルスは２－０と本学がリードした。シングルスは、３面進行で行われ３尾又、４岩本、５柳先輩という、くずした形で出場し、特に、２年生の岩本が、安定した強さを見せ、６－２、６－２というスコアで勝利した。３、４、５の試合が終わった時点で、我が校は、１ポイント落とした４－１となった。したがって、残り２試合は、ジャッジをしつつ落ちついて、見ることができた試合であった。シングルス２では、１年生の増田ちえりが出場した。彼女は、バックハンドとボレーを生かしたプレーを自分のものとしていたが、この時期はサービスの調子が悪く、練習の時は、サービスを何本も何本も打っていたのが印象的であった。やはり試合においても、サービスに苦労していたようであったが、広瀬監督にベンチコーチに入っていただき、良きアドバイスをいただいて、６－３、６－１と勝利することができた。人数は少ないけれども、一人一人の勝利への執着心が、実りとなったのだろうと思う。

三年　星野　薫

第三戦

本学６（Ｄ２－０　Ｓ４－１）１東京農業大学

第一戦、第二戦と勝ち進み、勢いに乗った第三戦。しかし、相手は一度も戦ったことの無い選手ばかりで、コート状況も立教側に不利ということもあって、少し不安だった。

ダブルスNo.１の畠中・岩本の相手川崎・面谷は、昨年の決勝戦で手ごわいペアというイメージがあったが、畠中・岩本はそんなイメージも感じさせない程の勢いで１ポイントを獲得した。

ところが一方、ダブルスNo.２の尾又・山崎はサービスゲームは取るものの、ブレイクゲームが取れず、ハラハラするゲームだった。ファイナルセットでは、アドバンテージをとり、デュースに戻され、と苦戦した末、ダブルス２ポイントめを獲得した。

シングルスは午後からコートの場所を変えて行われた。シングルスNo.３の山崎は第一戦で足の調子を悪くし、第二戦を欠場したため、調子を取り戻せるかどうか不安だったが、相手を振り回しのびのびとしたプレーを見せてくれた。しかし、足が痛かったのであろうか、始終顔をこわばらせ、緊張した面持ちであった。

なんと言っても東農戦で印象的だったのがNo.１の畠中の試合である。相手は新一年生の選手で、畠中が簡単に勝てると思われたが、とんでもなかった。畠中の打つどんな球も拾い、打っても粘ってもポイントを取れなかった。畠中本人も、応援する私達も相手にイライラさせられたが、みごと畠中は勝利を手にした。

四年　戸澤　愛

第１戦

立教大学　VS　横浜国立大学						
複	No.１	○	尾又・山崎	６－１，６－０	石沢・山田	
	２	○	畠中・岩本	６－１，６－０	行廣・美川	
	No.１	○	畠中暁子	６－０，６－０	吉村八重	
	２	○	尾又明日香	６－１，７－５	美川ガリートもも	
	３	○	岩本美幸	６－２，６－２	行廣梨栄	
	４		山崎真由美	４－６，２－１ RET	石沢順子	○
	５		柳　玲子	６－７(6)，６－４，２－６	宮沢華子	○
４			５	複 ２－０ 単 ３－２	２	11

第２戦

創価大学　VS　立教大学						
複	No.１		前田・池畠	５－７，２－６	畠中・岩本	○
	２		中田・福島	１－６，５－７	尾又・山崎	○
	No.１		池畠　有	０－６，３－６	畠中暁子	○
	２		福島正子	１－６，３－６	増田ちえり	○
	３		前田夕子	１－６，２－６	尾又明日香	○
	４		福島弓恵	２－６，２－６	岩本美幸	○
	５	○	中田春奈	６－３，６－０	柳　玲子	
12			１	複 ０－２ 単 １－４	６	２

第３戦

東京農業大学　VS　立教大学						
複	No.１		川崎・面谷	１－６，２－６	畠中・岩本	○
	２		中村・早川	６－３，４－６，１－６	尾又・山崎	○
	No.１		喜友名幸枝	０－６，２－６	畠中暁子	○
	２		面谷昌子	０－６，１－６	尾又明日香	○
	３		早川真紀	０－６，１－６	山崎真由美	○
	４		川崎綾香	１－６，４－６	岩本美幸	○
	５	○	中村由紀	６－２，６－２	柳　玲子	
12			１	複 ０－２ 単 １－４	６	３

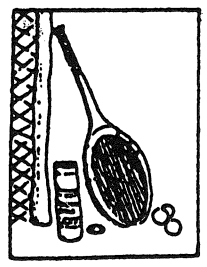
	創価大	横国大	拓殖大	成蹊大	立教大	東京農業大	勝敗	勝点	勝ポイント	失セット	順位
創価大		２－５	３－４	１－６	１－６	３－４	０勝５敗	0	10	50	⑥
横浜国立大	５－２		５－２	３－４	２－５	５－２	３勝２敗	3	20	32	③
拓殖大	４－３	２－５		２－５	２－５	４－３	２勝３敗	2	14	45	④
成蹊大	６－１	４－３	５－２		２－５	５－２	４勝１敗	4	22	28	②
立教大	６－１	５－２	５－２	５－２		６－１	５勝０敗	5	27	17	①
東京農業大	４－３	２－５	３－４	２－５	１－６		１勝４敗	1	12	52	⑤

第四戦

本学５（D２－０ S３－２）２成蹊大学

第四戦目、成蹊大学との試合は、富士見コートで行われた。それまでの一戦から四戦において立教大学、成蹊大学共に一敗もしていなかったため、この直接対戦で入れ替え戦順位が決定するという、これまでで最も緊張する試合となった。成蹊大学には、新入生でとても強いとうわさされる選手が出場していたので、選手は気を引き締めて試合に臨んだ。ダブルスは順当に出場し、畠中、岩本は相手のハードヒットに悩まされながらも、7－5、6－2というスコアで勝利した。又、尾又、山崎の一年生ペアは、それまでの四戦を経て、大学テニスのペースをつかみ、6－3、7－5と粘りを見せて、勝つことができた。私は主審として、畠中、岩本のプレーを見ていたが、二人の一年間の努力が結果を出したのだ、と同じ部員として誇らしく思えた試合であった。こうして2－0とリードしてシングルスの試合を迎えた。シングルの中で私が最も心に残っている試合は、畠中の試合だった。もともとこの日は、足の調子が悪く、ダブルスでは持ちこたえたものの、シングルスでは、かなり痛い様子であった。結果として敗れてしまったものの、最後までボールを追う姿は、素晴らしかったと思う。こうして、部員一同心を一つにし、つかんだ勝利は、とても大きなものとなった。

三年　吉田　涼



第五戦

本学５（D２－０ S３－２）２拓殖大学

それまでの四戦を全勝し3部入れ替え戦出場が確実という中で迎えた最終戦の対拓殖大戦。

結果だけを見ればまさに飛ぶ鳥落とす勢いで勝ち進んできた本学であり、波にのっている強さというものも確かにあった。しかしセレクションにより近年戦力著しい拓殖大学は油断ならない相手であり、次に控える入れ替え戦まで勢いにのっていきたいという望みから絶対に勝ちたい一戦であった。

また同時に私は二年前のリーグを思い出さずにはいられなかった。五部との下入れ替え戦で本学は拓殖大学に惜負し初の五部降格という屈辱を味わったのだ。あの時富士見のコートで見た先輩方のうなだれた姿と味わった口惜しさは忘れられるものではなかった。

二年前の雪辱をはらすためにも絶対に負けられない。負けたくない。あの時、降格のショックを共に味わった同学年の仲間達も同じ思いだったろう。

試合はまずダブルスを2－0でとり順調な滑り出しであった。続くシングルスでもNo.4の山崎が早々と一勝をあげそれに岩本が続いた。

我が校の四部優勝が決まった瞬間であった。しかしNo.5で出場した柳は今年セレクションで入部した新一年生の島を相手に苦戦を強いられていた。結局柳は惜しくも負けを喫してしまったが続く尾又と畠中が快勝し我が校の優勝をもち四部リーグが終わり同時に山の頂上を見た気がした。そして登りつめたいという闘志を新たに持った瞬間だった。

四年　庄司　友子

入替戦

本学６（D２－０ S４－１）１順天堂大学

〝四月二十八日〟私はその日を、きっと忘れない。一年間やってきたチームの全てがかかっていた。順天堂は、全く予想外の相手で気が抜けないが、今まで通り、持っている力を全て出して勝とうと全員で誓う。緊張の中、ダブルスが始まる。いつもに増して気合の入る岩本と畠中のミスのないプレーは、コート全体を引き締め、私達は勢いにのる。続くシングルス、これが私にとっては最後のチャンスであり、チームのために、そして自分自身のために、勝ちたかった。勝たなければならなかった。他は何も考えられなかった。隣りで山崎が苦戦していることも、昇格まであと1ポイントとなっていることも、知らなかった。応援の声に励まされながら、ただボールを追うだけだった。

試合が終わり、負け続けのベンチにずっと入り続けてくれた庄司の顔で、私は、〝昇格〟を感じ、そして、全てのプレッシャーから開放された。言葉では表すことのできない感動であった。

終わってみれば、断トツの試合ばかりであったが、リーグ中、何度も悩み苦しんだ。この〝昇格〟という目標を手に入れるまで、十三人の部員全員が、それぞれの立場で、精一杯力を尽くしてくれたことに感謝し、そして、そのチームワークを誇りに思う。私が最後に勝てたのも、何よりその力が大きかった。

後輩達には、最後の集合で流した涙と想いを決して忘れず、これからも、さらに上を目指して、闘って欲しい。

四年　柳　玲子

第４戦

立教大学　VS　成蹊大学

複	No.1	○	畠中・岩本	7－5，6－2	竹内・高木	
	2	○	尾又・山崎	6－3，7－6(1)	野村・浜口	
	No.1		畠中暁子	1－6，1－6	高木恵未	○
	2	○	尾又明日香	6－1，6－1	浜口明子	
	3	○	岩本美幸	6－1，6－4	竹内志乃	
	4	○	山崎真由美	6－0，6－2	野村美香	
	5		柳玲子	1－6，1－6	池田三絵子	○

4　5｛複 2－0 単 3－2｝2　10

第５戦

立教大学　VS　拓殖大学

複	No.1	○	畠中・岩本	6－2，6－1	石原・島	
	2	○	尾又・山崎	6－0，6－1	大沢・中村	
	No.1		畠中暁子	W．O	石原司歩子	○
	2	○	尾又明日香	6－0，6－0	辰見敬子	
	3	○	岩本美幸	6－1，6－0	大沢牧子	
	4	○	山崎真由美	6－1，6－0	中村悠子	
	5		柳玲子	0－6，0－6	島茜	○

4　5｛複 2－0 単 3－2｝2　10

入替戦

順天堂大学　VS　立教大学

複	No.1		臼井・阿部	0－6，0－6	尾又・山崎	○
	2		山本・中山	2－6，1－6	畠中・岩本	○
	No.1		畝本智美	0－6，0－6	畠中暁子	○
	2		臼井朋美	1－6，0－6	尾又明日香	○
	3		中山保子	2－6，2－6	岩本美幸	○
	4	○	山本あい	6－2，6－4	山崎真由美	
	5		高橋有紀	1－6，2－6	柳玲子	○

12　1｛複 0－2 単 1－4｝6　2

テニスを通じて
コミュニケーションラリーをめざす

テニスのことなら、私にまかせて下さい。
ラケット選びから、テニスコートの企画・開発
設計・施工、スクールの運営・指導など、テニスに
関する全ての業務を行なっております。
あなたのコンサルタントとして、お気軽に
お声をかけて下さい。お待ちしています。

フミヤスポーツ
代表取締役　倉光　哲
（元全日本チャンピオン）

フミヤテニスショップ
池袋店（西武百貨店8階）　☎(03)5992-8954
新宿店（伊勢丹百貨店新館6階）　☎(03)3352-1111
渋谷店（西武百貨店ロフト館地下1階）　☎(03)3462-3667
品川店（品川プリンスホテル内）　☎(03)3447-3068
富士見ヶ丘店（井の頭線富士見ヶ丘駅）　☎(03)3335-7820

フミヤテニススクール
相模園会場（京王線仙川）　☎(03)3307-9203
富士見ヶ丘会場（井の頭線富士見ヶ丘）　☎(03)3307-6776
トムインドア会場（中央線豊田）　☎(0425)85-0201
横浜インドア会場（横浜線大口）　☎(045)401-5611
スパ白金会場（港区白金台）　☎(03)3444-5811
市川会場（京葉線市川塩浜）　☎(0473)99-8383
高井戸会場（京王井の頭線高井戸）　☎(03)3333-7842

あなたのテニスコンサルタント
フミヤスポーツ
〒166 東京都杉並区高円寺北3－22－3
TEL 03（5373）1561
FAX 03（5373）1562

頑張れ！立教テニス
男子部・女子部合併おめでとう

東海テニス立教会

S.19年卒 半谷　裕
S.37年卒 小西一三
S.37年卒 安達正純
S.38年卒 松波幹忠
S.39年卒 伊藤正信
S.41年卒 深尾昌利
S.43年卒 若杉正明
S.44年卒 富田次郎
S.48年卒 清水春海
S.56年卒 谷口秀治
S.58年卒 竹下喜六

中学・高校通信

中学校庭球部　新たな出発

立教中学校テニス部副部長　西村　博文先生

今年は一年生の入部者が32名を数え、二年生24名、三年生16名と合わせて72名の大所帯となった。部長も88年から八年間務めた原真也先生から中学庭球部OBである重原康秀先生（社会科）に代わった。

関東大会では残念ながら、団体戦・個人戦ともに全国大会への出場権を得ることが出来なかったが、部再建の歩みはもうすぐ後の合宿から始まっている。立大体育会の現役をはじめ、OB10名を越える方が、那須スポーツパークで、朝の体操、グループ対抗ソフトボール大会、午前・午後の練習、夜のミーティングまで、楽しく・厳しく・親切に指導をされた。実に充実した六日間であった。ここで学んだものをふだんの学校での練習の中でどう生かしていくかが今後の課題であろう。班別の練習、技能別の練習、心をこめたコート整備や用具の扱い、チームワークの向上など、よりよいテニス集団としての成長が期待されている。

最近テニスの指導法もずいぶんと研究されている。因循姑息（いんじゅんこそく・古い習慣を改めないこと）であってはいけない。すすんで新しい技術・練習法を取り入れ、毎日の部活動が生き生きしたものになっていくことが大切である。そのためには、ふだんの練習にもOBや大学生の指導があるとよいと思う。いま、戦後のテニス部を復興させた石川武さんや66年度卒業の浅見豊さんらを中心に中学校テニス部のOB会発足の話が進んでいる。七十年の伝統を持つテニス集団の底を流れているものを現在の部員に伝えていくことは先人の義務でもあり喜びでもあろう。それが、単に個人のかかわりで行われるのではなく、組織的になされていく時にもっと大きな力となって、中学生のテニスプレイヤーを励まし育てるのだと思う。良いテニスプレイヤーもまた生まれるものではなくつくられるものである。

高校テニス部の現状について

立教高校テニス部顧問　平山　晋先生

現在、立教高校のテニス部は、三年14名、二年15名、一年17名の計46名の部員である。

現三年生の代になってからの昨秋以降の高体連関係の戦績は、以下の通りである。

・95年度埼玉県新人大会
個人戦（10・7〜10・10）
S　ベスト4　入部圭介
団体戦（11・2〜4）
入部・木原・吉井・徳田
工藤・田中
準優勝
・95年度関東選抜テニス大会
団体　13位
・96年度関東大会埼玉県予選
個人戦（5・3〜6）
S　ベスト4　米田健介
ベスト8　入部圭介
D　第3位　米田・入部組
団体戦（5・11〜13）
米田・入部・木原・工藤
徳田　準優勝
・96年度関東高校テニス大会
団体戦　1回戦
個人戦
S　2回戦　米田健介
D　第3位　米田・入部組
・96年度インターハイ県予選
団体戦　準優勝
個人戦
S　ベスト8　米田健介
D　第2位　米田・入部組
ベスト8　工藤・木原組
徳田・吉井組
・96年度インターハイ
（於：山梨県）
ダブルス　1回戦
米田・入部組

残念ながら、部の目標の一つである団体戦での全国大会出場は逃したが、関東選抜は3年振り、関東大会は6年振りに出場した。また、インターハイも2年振りに出場を果たしたので、この経験を、これからの練習に十分生かしたい。

同立定期戦（男子）

昨年の同立は同志社で行われました。午前中のダブルス、午後のシングルスを通して立教が押していました。

同志社の選手たちに比べ、立教の選手はみんなねばり強く、一球一球を大切に打ち、最後にミスをするのは同志社の選手たちでした。

自分は審判をしていましたがシングルスNo.6の神藤さんの力強いストロークや、シングルスNo.3の阿部さんのボレー、シングルスNo.2の村木さんのしっかりとしたストロークなどは立教の勝利を力強く呼び込むものでした。

昨年の同志社大は関西リーグの一部に昇格をはたしたチームで、福田、寺内という僕と同学年の二人の柱をもっていました。昨年の私達にとっては三部昇格をはたすために絶対に負けられない試合で、この二人との試合は特に注目でした。しかし、当日は福田が出場できず、寺内がシングルスの一で粂田さんと対戦しました。僕はその試合のボーラーをしていましたが、立教のナンバー1で関東学生の粂田さんがネットにつめても見事にパスやスピンロブでぬかれる度に、「これがインカレか」と大きな驚きをもって見ていました。それとともにこれからの敵を想像すると恐いものでした。

結果として7−2で立教が勝利しましたが、二部昇格のためにはこれ以上のスコアで今年は勝ちたいと思います。

二年　高田健太郎

同立定期戦（女子）

平成8年12月3日、立教大学と同志社大学との対抗戦が、同志社大学にて行われました。前日のレセプションで仲良くなってしまっただけに、お互いにやりにくい面がたくさんありました。特に一年生は、ボーラーという仕事があり、試合に入る前は「仲良くなったばかりの友達とボールを取り合うのは嫌だな」と思いました。しかし、そんなことは言っていられません。立教大学の勝利をかけて、同志社大学に勝負を挑みます。今回の対抗戦はリーグ戦と同様、ダブルス2本・シングルス5本の計7本で行われました。まず初めはダブルスの試合からです。No.1は畠中・岩本の一年生ペア、そしてNo.2は柳・吉田の二・三年生ペアです。初めての同立戦ということもあり、緊張していた畠中・岩本組は、1セット目を3−6でおとしてしまいましたがその後を6−0、6−2とし、何とか一勝を上げることができました。柳・吉田組は惜しくも敗れてしまいましたが、この時点では、1対1の同点。まだまだこれからだ、とチームの気合いが高まる中、吉田・戸澤・柳・岩本・畠中の順でシングルスの試合が行われました。何とか先に勝ち星を上げたい所でしたが、苦戦のすえ、先に3本落としてしまいました。この後、何とか一勝し、続く畠中も7−5とリードしていましたが、日没となってしまいました。結局試合は、4対2で負けてしまいましたが、来年に向けての新しい目標を、各自持ち帰れたことと思います。

二年　岩本　美幸

明立定期戦

明治大学で行われた明立は、昨年は4−5で惜しくも敗れてしまいました。午前のダブルスが終わった時点では2−1で立教がリードしていました。阿部さんと粂田さんのNo.1、村木さんと岡さんのNo.2が勝ったのです。午後のシングルスはまず岡さんが一本取り、立教はすばらしい雰囲気で勝ちへと突き進んでいました。しかし、久々湊さん、吉崎さんが次々と敗れ3−3で並び、阿部さんが惜しくも一本落として3−4となった時には悪い流れができたのかもしれません。粂田さんが一本取り4−4で並び、村木さんも押していて、みんなが勝利を意識した時、太陽は明治に味方し翌日の結果となった。

昨年の新進テニス大会の後のこの時期に、僕は一年で一人になってしまった。毎日が精一杯でした。明立もボーラーに入って、ジャグを用意してジャッジに入ってからまたボーラーに入ってと本当に大変でした。しかし、自分では、ボーラーだったら二部にも負けないと信じて、がんばりました。

試合は日没で明日までもつれこむ大接戦で、4−4でシングルスNo.2だけが残った時には自分はボーラーでしたが最後まで必死に戦う村木さんにもっと何かをしてあげることができなかったかと思うと今も残念でたまりません。あともう少しで二部のチームに勝てたかと思うと本当に残念です。

しかし、今年は一年がたくさん入りました。彼らが去年の僕より盛り上げて今年は絶対に勝ちたいと思います。

二年　高田健太郎

合同練習会

平成7年11月23日。身を切るような寒さの中、池袋の立教中学校テニスコートに、小学校から大学までのテニス部関係者が集合した。今年は高校生も参加することが出来、久しぶりに全員が顔を合わせることになった。

立教中学でテニスを始めた私にとって、この合同練習会は思い出深いものである。まだ幼かった私にとって、大学生は大きくてかっこよく、気が付くとその姿を目で追っていたものである。その時の大学生に少しでも近づきたくて、今までテニスを続けて来たようなものである。

しかし、こうして自分自身が大学生になった今、中学生が自分を見て、どう感じているかを考えると複雑は気持ちになる。

ともあれ、私自身が「憧れの大学生」に一歩でも近づくことが、様々な面で大学のテニス部を強くすることにつながっていくと思うので、これからも頑張っていきたいと思う。

三年　大熊　隆史

1992 FALL & WINTER
GO WITH THE Champion WORLD
STEVE & COMPANY SINCE1979
Champion WORLD 直輸入代理店・STEVE and COMPANY 総輸入販売
貿易商社
スポーツマンインターナショナルジャパン㈲
代表取締役　鈴木康正　〈昭和54年卒〉
〒104 東京都中央区八丁堀4−9−13
TEL 03−3551−6369㈹　FAX 03−3551−6373

〔コンクリート製品〕
日東の防火水槽、貯留槽
ボックスカルバート、ニューウォルコン
ロングu、BIG-u
株式会社 日東
取締役社長　三町令子
42年卒　原田正明
〒350-02　埼玉県坂戸市千代田5-7-1
TEL 0492-83-5181
FAX 0492-83-5186

公和自動車交通株式会社
〒162 東京都新宿区東五軒町3番3号
電話（3269）3281番（代表）
（36年卒　山中　博司）

昇格に想う

主将　阿部　宏

三部神奈川大学との入替戦、私がシングルスを終えて応援に戻ったとき、全体では4対3と三部昇格まであと一勝というところでした。そして村木が勝利を決めたとき、何よりもほしかったものを手に入れた喜びと、周囲の期待や自身の不安によるプレッシャーから逃れた安堵感とが交錯した複雑な気持ちを覚えたことを私は一生忘れないだろう。

一年間を振り返ると、今年度は近年希にみる好結果を残せた年であったと思います。春関の粂田のシングルスを皮切りに、夏関で阿部・粂田のダブルス（翌年インカレ出場）、新進で村木のシングルス、村木・岡のダブルスがそれぞれ本選に出場し、個人戦終了の時点で四人の関東学生が輩出されました。又、団体でも一、二部校のほとんどが出場している秋季リーグ戦で八位、本番のリーグ戦も周知の通り四部全勝三部昇格を果たしました。そこには実力、努力、協力、運、その他いろいろな要因が凝縮されていると思いますがその原動力となったのは昨年三部昇格を果たせなかった前幹部の悔し涙であったと思います。そして現役自身もその悔やしさがバネとなって今年の躍進につながったと思います。その他でも一年間を通して数多くの方々に部を支えて頂きました。まず四年生の頑張りがありました。副将若狭は初心者だったにもかかわらず最後はリーグ戦に出場し、勝つことこそできなかったがその気迫と執念は我々を勇気づけてくれました。同久々湊は一年中テニスについて考え、勉強し、努力してる姿を目に焼きつけられましたし、主務神藤は最後のリーグ戦もケガで出れないと分ると、選手の強化のためであればどんな事でもすすんでしてくれました。彼等は一年間本当によくやってくれたと感謝しております。そんな彼らの姿を見て皆が一丸となり昇格を勝ち取る大きな要因になったのです。そして何よりも強化委員をはじめとする先輩方の御力添え無くては昇格はありえませんでした。監督の適切なアドバイス、両コーチの技術指導、特にお忙しい中毎週教えに来て下さった山田コーチ、幾度となく激励会を開いて下さった岸本会長、豊田理事長、合宿を実のあるものにして下さった中島さん、又、心の支えにさせて頂いた柳内さん、大阪から足を運んで下さった増田さん、私達を常に熱くして下さった田中さん、その他たくさんの御指導・御協力を頂いたＯＢの皆様、本当にありがとうございました。

最後に、一昨年のＡＲＴで四部昇格は王座優勝へのスタートであってほしいという千葉さんの御言葉がありました。どうか後輩達には二年がかりの今年の一歩から更に大きな一歩を踏みだしていけるよう頑張ってほしいと思います。

スタート

女子主将　柳　玲子

自分自身、後悔だけはしたくない、そして終わった時、全員が満足できる結果を残したい。そんな想いで一年間やってきました。少人数ながらに、レベル差も激しい今年のチームでは、今まで通りにいかないことも多々あり、次から次へと出てくる問題に頭を抱える日々でした。チームは何度もころび、練習にならない日もありました。時には不安を覚えながらも、一歩ずつ前進し、やっとつかんだ昇格の喜びと感動は、何ものにも変えられない一生の財産です。

吉田を中心に新チームは新しいスタートをきったわけですが、一部への足がかりの一年にと、部の様々な改革に取り組み、リーグ戦では応援に回りながら、チームをずっと支えてくれた戸澤、武田、庄司のリーグ戦での姿と想いを決して忘れず、テニスだけでない、全ての面で強いチームになって欲しいと思います。

最後に、一年間、私達と一緒に考え、テニスだけでなく、人として大切なたくさんの事を教えて下さった広瀬監督、コーチの方々、私達がテニスだけに打ちこめる体制を常に作って下さった岸本会長、八木下副会長、豊田理事長、中島さんコートに度々足を運び最後まで励まし続けて下さった飯塚さん、毎日厳しくテニスの基本から教えて下さった立教高校の佐藤先生、他、全てのご指導いただいた先輩方に心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

二部昇格に向けて

新主将　村木　祐介

今年度主将を務めさせて頂くことになりました。社会学部産業関係学科三年、村木祐介です。宜しく御願い致します。

昨年度は「三部昇格」という目標を掲げ、阿部主将を中心に現役一同リーグ戦に望みました。そして、四部全勝という結果を残し、見事三部昇格という目標を果たすことができました。部員一人一人が勝つことの喜び、そして、難しさというものを改めて実感させられたリーグ戦であったと思います。

リーグ戦を終え、今年は六人の新人部員を向かえることができました。総勢十四名の新チームであります。昨年度までの反省をふまえ、今年度は大きく三つの点に重点を置くことになりました。

第一に一、二年の強化という点です。これは言うまでもなく、若いチームである私達には必要であり、主力が三年に集中しているという点においても重要であると考えました。そのために、日々の練習の目的を明確化し、何のための練習なのか、どのような技術を身につけるための練習なのか、どこを鍛えるトレーニングなのかということを理解した上で部活に参加するという姿勢を作り上げたいと思います。

第二に挙げられるのは、部内の競争意識を高めるという点です。近年、部員数の減少に伴い部内での実力順位が常に同じような状態になってしまい、部内戦での結果が目に見えたものになってしまうという傾向が見られました。そこで今年は、一軍二軍のみの対抗戦を行う予定であります。

第三に挙げられるのは、対外試合での経験を増やすということです。今年のチームは、リーグ経験者が五人いるものの、全体的に試合の経験不足が目立ち、接戦における精神面のもろさや、試合の組み立て方のレベルの低さが目立ちました。更に、練習したことを実際の試合で試みる場が少なく、いざという場面でショットに自信が持てないという問題があります。オープン大会への参加、対抗戦の増加をすることで、この点を克服したいと考えています。

今年は昨年以上に厳しい戦いが予想されますが、鷲田監督、藤井コーチ、山田コーチの御指導を中心に、前述の課題を克服し、「二部昇格」という目標を達成することによって、ＯＢの皆様方の多大なる御支援、御期待にお答えしたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

昇格目指して

女子新主将　吉田　涼

本年度主将を努めさせて頂くことになりました、吉田と申します。ＯＢ、ＯＧの皆様、宜しくお願いいたします。

昨年度は、多くの御支援、御指導を頂き男子、女子共に三部昇格という、本当に嬉しい結果を残すことができました。部員一同深く感謝しております。

ここ数年間、立教大学体育会テニス部は、男女共に少人数化が進みつつあるものの、着実に五部から四部、四部から三部へと実力を延ばしてきています。少人数ながらも、一人一人の勝利へのゆるがぬ気持ちが、この結果を導いたのだと思います。そして、男女合併という素晴らしい変革が成された今年、男女一致団結し、互いの良い部分を貧欲に取り入れて、必ずや二部昇格を目指したいと思っております。

けれども三部校、二部校の並々ならぬ努力と粘りのあるプレーに打ち勝っていくには、それ以上のテニスに対する情熱、日々の努力が必要となります。そのためにも、一日一日の練習を、一回のラリーを、そして一球一球を大切にし、分け隔てなく皆でアドバイスしあって、切磋琢磨してゆきたいと思います。

今年も、昨年の感動をもう一度味わうためにも、必ず男女同時二部昇格を果たしたいと思います。今後とも皆様の御指導、御支援の程宜しく御願い致します。

平成八年度年間予定表

- 4月
  - ・リーグ戦〈平成8年度〉
- 5月
  - ・関東学生テニス選手権大会〈春期〉
- 6月
  - ・新入生歓迎会
- 7月
- 8月
  - ・夏合宿　館林市　山中湖
- 9月
  - ・関東学生テニス選手権大会〈夏期〉
- 10月
  - ・秋季リーグ
  - ・新進テニストーナメント（1次予選）（2次予選・本戦）
- 11月
  - ・同立定期戦
  - ・新座スポーツフェスティバル
  - ・合同練習会
- 12月
  - ・明立定期戦
  - ・納　会
- 1月
- 2月
  - ・リーグ戦合宿〈春合宿〉

平成八年度　新幹部紹介

主将・村木祐介　0423（66）4563
吉田　涼　0425（62）0828
副将・岡　利之　0423（85）8388
主務・大熊隆史　03（3658）6081
星野　薫　03（3900）8099
副務・高田健太郎　03（3954）5236

男女協力しながら、二部昇格を目指して精進致しますので、ＯＢ・ＯＧの方々の日頃より一層の御指導、御支援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

FIC INTERNATIONAL
生・損保代理店
●東邦生命　●大成火災海上
●日本火災海上　●大東京火災海上
株式会社 フィックインターナショナル
〒171 東京都豊島区長崎4-16-8 メゾン小城山1F
TEL 03-5995-2151 FAX 03-5995-2150

飲・食・遊

■椿　三十郎	原宿	☎3408−9494
	池袋	☎5951−3355
■ハバナクラブ Ⅰ	六本木	☎3405−4335
Ⅱ	椎名町	☎3959−9882
Ⅲ	池袋	☎3985−3948
■コーンフィールド	高円寺	☎3339−9310
■ケンジントンクラブ	王子	☎5390−1500

お弁当ステーション 椿　☎3554-2800
各種会合、パーティ等に！　御予約、内容は御相談に応じて！

S 54卒、秋元 英晴

PARTY IS OVER

プロローグ

思い返すと息苦しさを感じてしまう。

息苦しいほどに感激してしまうからだ。

「テニス部っていいなぁ…。」そして幸せに浸る一刻が来る。

前略

さる十月五日のパーティは、百二十余名のご出席を頂き無事盛会のうちに終了することができました。

これもひとえにパーティ「成功」に向けご協力、ご尽力頂いた諸先輩、愛する後輩達、そして心から支えてくれた同輩の賜ものであったと深く感謝しております。

誠にありがとうございました。同時に、現役当時と変わらぬ成長の無い私であった為運営等に当りましては関係者の方々を始め当日の出席者、又、多くの方達にご心配、ご不満を抱かせてしまったことと推察し反省もしております。

誠に申し訳ございませんでした。

私自身は、今回のパーティを通して今迄とはまったく違う得難い人生経験を積ませて頂き、加えて己の至らなさを補って余りある友の「友情」のやさしさに身を委ねることが出来た喜びは一生の思い出となりました。ただただ感謝するばかりでございます。今般皆様から頂いたご厚情を人生の更なる飛躍の糧とし、明日のテニス部の栄光とセントポールテニスクラブでの楽しい交流に今後もそのエネルギーを力一杯使っていきたいと思っております。

お世話頂いたことに何のお返しもできず誠に申し訳ございませんが「仕様がない奴」と叱り笑い飛ばして頂けるなら望外の幸せでもございます。

己の至らなさばかり披露してしまった今回のパーティではありましたが、得るもの多く人生の良き思い出をつくらせて頂きましたこと重ねて御礼申し上げますと共に、改めまして心暖まるご協力、ご協賛頂きましたことに深く御礼申し上げます。今般は誠にありがとうございました。

平成八年十月十五日

関係者各位

実行委員長　中島　幸彦

「お父さん、朝からそんな怖い顔してどうしたの。もう少しリラックスしたら。」と妻は言う。同調して「そうだよ、お父うしゃん。」と訳が解っているのか解らぬのか四才の息子までがそう言う。私の十月五日はこうして始まったのだが「（オレ）緊張しているのかな…。」と小声で返答した自分の心は早会場の都ホテルへ飛んでいた。

「ＯＢ会ＯＧ会合併記念パーティ」これが今回の正式名称である。基本コンセプトは二つ。

㈠ＯＢ・ＯＧの方に一人でも多く合併したことを知ってもらうこと。

㈡パーティでは納会、総会でやらぬことをする。

とは言うものの一人でも多くの方に出席して欲しい、楽しんで頂きたいと思うとその手法において意見も百出。結局は「固苦しい結婚式はもう（総会で）終わったんだし今度のパーティは披露宴だから気楽にやってくれればいいよ」の会長の一言で一件落着。

パーティはウェルカムドリンクに始まりフリーシートでのビッフェスタイルでスタート。慣例のご挨拶、乾盃は食事の後ちょっぴり羽目をはずさせてもらう。

受付も混乱の様子。グアム旅行が当るビンゴカードの販売は現役への義援金になるので力も入っている。このテの催しに始めて出席して下さった方、遠く沖縄、和歌山、三重から駆けつけて下さった方、嬉しさと感激そして忙しさの中でスタッフも興奮を隠しきれない様だ。

会場内では「（コン）チワー」「オスッ！」「お久しぶり」と体育会が始まった。ご家族で出席している方も多数見受けるが普段と様子の違うお父さん、お母さんにおびえているのではと心配してしまう。そう！私達は「体育会」なのである。

一息ついた所でスライド上映。当日試合の為出席できぬ現役諸君がつくってくれたものだ。懐かしい立教通り、大学、神学院、富士見のテニスコートと次々映し出される度に昔の思い出がよみがえってくるのだろうか。那須ＯＧの絶妙なプロデュースのもと演出も進行も計算通り進んでゆく。改めて彼女に代表されるＯＧの底力に脱帽。戦積的にも女子部に押され気味の男子部の昨今だが現役同様私達も、うかうかしていられない。

注目のグアム旅行は細田（五十六卒）一家が射止めた。お子様奥様の喜びぶりに対し心無しか細田君の顔が引き吊っている。訳は簡単、無料でご招待は一名様限りなのだ。（写真）

宴が終り会場の外にはいくつもの輪ができている。それが別れ難いものであったならしてやったり。このパーティで出席して頂いた方達に感じて欲しいものであったからだ。「オイ、オイ、待ってくれよ。オレも行くぜ」

エピローグ

気がつくと時計も夜の三時を廻っている。底抜けに楽しい二次会だった。

ホテルへ帰るとまだ体に余韻が残っているのかパーティ会場へ足が進んでしまった。寝静まった会場にいろんな出来事が思い返され胸が熱くなってきた。

ＰＡＲＴＹ　ＩＳ　ＯＶＥＲ。

家族に心から感謝をこめて

卒業生紹介

○**河村　貴史**　主将

後輩の面倒見がよく、私達の兄貴的存在だった河村さん。その高いお声は、心の中にいつまでも響いています。

○**出口　卓央**　副将

練習熱心でひたむきな出口さん。サウスポーから繰り出される強烈なフォアハンドに、私達は魅了されました。

○**山崎雄一郎**　主務

何事にも一生懸命な山崎さん。その誠実さに私達はいろいろなことを学びました。

○**保戸塚哲也**

コートの中では非常に厳しかった保戸塚さん。私達に練習の大切さを教えて下さいました。

○**松本俊一郎**

常に冷静沈着な松本さん。リーグ戦でのボーラー姿に、私達は感動しました。

○**鈴木　麻衣**　主将

頭の回転がとても良い麻衣さんには、テニスだけでなく様々な面で多くの事を教えていただきました。部を一つにまとめ、四部昇格へ導いていただきました。

○**落合由希子**　副将

人一倍声が大きく、面倒見の良い落合さん。日々の努力の積み重ねの大切さを教えていただきました。

○**笹川　友紀**　主務

主務と同時にレギュラーとしても活躍されました。練習が終わると優しい友紀さんにはたくさんの良きアドバイスをいただきました。

○**横田　陽子**　副務

コートの中ではどんな球でも返そうという気迫にあふれていました。あきらめず何事にも努力することを教えていただきました。

○**小池　博子**　トレーナー

トレーナーとして部員を思いやるとともに、部の雰囲気を盛り上げていた博子さん。いつも前向きで明るく輝いていました。

建

土木・建築・骨材一式採取販売

三重建材株式会社

〒174 東京都板橋区坂下３丁目28番24号

TEL 03（3966）8491番（代表）

50年卒　梅田　憲司

NAKAJIMA

REAL ESTATE

中島毛織株式会社

中島総業株式会社

株式会社ユキ・ジャパン

〒374 群馬県館林市大手町7-20

TEL 0276・72・0420

FAX 0276・73・8175

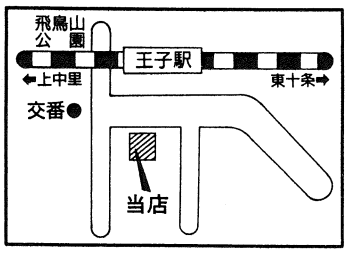
GROUP

optic house oji　SINCE 1947

アイファッションと難しいメガネの専門店

王子メガネ

〒114 東京都北区王子1-9-1　電話 3913－1549



（各種コンタクトレンズ取扱っております）

立教大学体育会テニス部男子名簿

学年	学部	学科	役職	氏名	出身校	〒	住所	☎
			部長	栗原　謙二		171	豊島区西池袋２－25－10－106	03-3988-5071
			監督	鷲田　典之		177	練馬区下石神井４－10－19－30	03-3995-6060
			コーチ	藤井　孝信		168	杉並区宮前３－31－10－１－147	03-3335-8777
			コーチ	山田　昇		184	小金井市貫井北町３－19－７	0423-83-5609
4	済	済		阿部　宏	立教	171	豊島区池袋３－44－３－104	03-3988-7473
	済	営		久々湊仁彦	県立富山東	115	豊島区池袋本町４－11－７－101	03-5951-2419
	法	法		神藤　浩史	立教	203	東久留米市氷川台１－19－２	0424-75-4370
	理	物		若狭　信治	国学院久我山	214	川崎市多摩区寺尾台１－4923－９	044-955-1382
	済	営		橋之口優子	県立小金	277	柏市酒井根823－17	0471-73-7177
3	社	産	主将	村木　祐介	立教	183	府中市寿町１－６－３－603	0423-66-4563
	社	産	主務	大熊　隆史	立教	125	葛飾区高砂２－33－14	03-3658-6081
	社	観	副将	岡　利之	立教	184	小金井市東町１－19－11	0423-85-8388
	済	済	学連	里和　勇人	立教	164	中野区東中野２－４－16	03-3365-0683
	社	社		粂田　博史	県立新潟南	351-01	和光市白子３－30－12－101	048-461-7978
	社	観		吉崎　太二	立教	192	八王子市北野台２－29－16	0426-36-6206
	社	観	女子マネ	関　秋鹿	共立女子第二	192	八王子市中野上町４－32－10	0426-22-2976
	社	産	女子マネ	高木香代子	県立新潟高	171	豊島区西池袋２－31－８－102	03-3989-6791
2	法	法		大野　潤三	立教	168	杉並区高井戸西１－11－17	03-3331-4009
	社	産	副務	高田健太郎	立教	161	新宿区中落合１－14－29	03-3954-5236
	済	済	女子マネ	八木　未来	新潟中央	203	東久留米市東本町４－６－503	0424-71-7909
	文	心	女子マネ	山崎貴身江	実践	152	目黒区鷹番１－３－８	03-5704-4226
1	法	法		井口　博之	立教	112	文京区音羽２－２－２－805	03-3942-7128
	社	観		小笠原龍太	東筑	351-01	和光市白子１－26－７	048-467-3410
	社	社		斎藤　征爾	国学院栃木	343	越谷市蒲生愛宕町８－21	0489-87-6717
	社	社		真田　康志	立教	270	松戸市常盤平２－４－７	0473-88-2281
	済	営		島津慎一郎	大宮	330	大宮市東町２－203－１－128	048-647-6046
	済	済		和田　憲治	立教	184	小金井市梶野町２－14－７	0422-52-0867

新入生紹介

法学部　法学科
二年　**大野　潤三**

初めまして。今年二年生で入部した大野潤三です。中学・高校と立教の庭球部に存籍し、大学では去年までスキーサークルで活動をしてきましたが、やはりテニスがしたくなり、遅まきながら入部を決意しました。

自分が入部を決意した理由は幾つか有りますが、まず自分にとってテニスと言ったら立教の庭球部しか考えられない事、そして立教の看板を背負って試合に出るからには、勝つテニスをマスターしたい、という二点を特に挙げる事が出来ると思います。

自分の三年間の目標は、入部の動機と重なりますが、とにかく強い選手になりたい、という事でその結果として個人では関東学生、団体では二部昇格の一端を担う事ができたらと思っています。

今後とも御指導よろしくお願い致します。

経済学部　経済学科
一年　**和田　憲治**

僕が立教大学体育会テニス部に所属しようと思ったのは高校での自分のテニスが満足のいくものではなかったためと大学での四年間を棒に振りたくなかったためです。体育会テニス部は様々な指導者からの良きアドバイスまた科学的なトレーニングを積極的に取り入れており、努力すれば必ず上達する場所だと信じてます。四年間で自分のテニスに磨きをかけ、また人間的にも大きく成長し、最終的に満足のいく結果が出せる様、頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

社会学部　社会学科
一年　**真田　康志**

僕が体育会テニス部に入部して三ヶ月が経ちましたが、入部理由はと聞かれてすぐに即答することはできません。まだよくわからないのです。立教中学よりテニスを始め、中学高校と六年間テニス部に所属しました。そして大学でももちろん続けるつもりでした。ただ、大学の象徴ともいえる華やかなサークル活動が僕の頭の中にあり、そこでテニスをエンジョイするという考えでした。しかし僕は今、なぜか体育会の中にいて、毎日毎日厳しい練習を行なっています。一つ言えることは、テニスが好きであり、体育会でできる限りの努力をしなくてはいけないということです。その努力を重ね、在学四年の中で入部理由を見つけられるように頑張りたいと思います。

法学部　法学科
一年　**井口　博之**

私がテニスというスポーツに興味を持ち始めたのは、中学三年の時でした。中学時代は、サッカーをやっていたのですが、受験も近づく三年の夏頃には、暇を見つけては、テニスばかりしていました。そんな理由で、高校では、立教テニス部に入部しました。その勢いで今、大学でテニスをしているのですが、現在、自分の中でテニスはますます奥の深いものになって来ています。最近では、〝頭を使って勝てるテニス〟が、課題になっているのですが、テニスを初めてした時の新鮮な楽しさ、喜びを忘れてきている様な気がします。もう一度、自分自身の気持ちを整理し、自分にとっての大学テニスの意味と意義を考え直して、悔いのない四年間を送りたい。そう思っています。

経済学部　経営学科
一年　**島津慎一郎**

私がテニス部に入部したのは、公式戦に出たいということがきっかけです。浪人したので、初め体育会に入ろうとも思っていませんでしたし、もっとほかにやりたいことがたくさんあったので、なおさらでした。でも、高校時代、自分なりにがんばってインターハイを目指していたのですが、結局出れませんでした。そのことが、どこかでひっかかってまだやり残したことがあるのではという思いがありました。だからもう少しがんばってみようと思って入部しました。

四年間の目標として、もちろんインカレに出るということをもっています。テニスプレーヤーとしてやはり試合に負けることは屈辱的なことですし、やるからには、高校時代果たせなかったインターハイへの夢を大学で果たしたいです。

体育会テニス部を通して、テニスだけではなく人間関係や様々なことを学びたいと思います。そして引退する時には、今ある自分よりももっと大きな自分になっていたいです。

社会学部　観光学科
一年　**小笠原龍太**

僕は一年浪人して立教に入りました。大学に入った人と電話して教えられた事は、何か自分のしたい事を持っていないとせっかくの大学生活も無駄になるという事でした。入学してから、大学でしか出来ない事をしようかと迷いましたが、リーグ戦を見に行って先輩方の試合を見て、勝った時の感動を味わった時、今度は自分が試合に出てこの感動を味わおうと思い、硬式テニス部に入ることを決めました。

最初は練習がつらくて大変でしたが、合宿も何とか乗り越えて、少し自分自身強くなったように感じました。今後もみんなで励まし合い、勝った時の感動を味わえるよう頑張りたいと思います。

社会学部　社会学科
一年　**斎藤　征爾**

僕は二度の受験を経て立教大学に合格した。大学に入って何をしようかと考えたときに、何か一つのことに打ち込んで有意義な四年間を過ごしたいと思った。初めはテニスサークルに入ろうとも考えたが、雰囲気が自分に合わないと思ったので体育会テニス部に入ろうと考えていた。そのときにちょうどリーグ戦を見学した。僕が予想していたものよりはるかに熱いものだった。特に入れ替え戦での勝利は特に感動した。

今の僕の目標はリーグ戦で勝てるプレイヤーになり、立教大学の勝利に貢献することだ。

テニスを通じてさらに何か得るものがあれば僕の四年間は充実したものとなるだろう。

法学部　法学科
一年　**尾又明日香**

私が立教大学硬式テニス部へ入部しようと思ったのは、高校で私にテニスを教えてくださった先生との出逢いがきっかけでした。

その先生は、今まで気が付かなかった大切な事や、今まで自分がいかに無駄な時間を過ごしてきたかという事をたった三年間で教えて下さいました。

私は、小さな頃からテニスをしていましたが、親から教えてもらっていたという事もあり、なんのプレッシャーもなく試合をしてきました。それが今となりどうしても勝ちたいと思う試合で、精神的な弱さとなり出るようになってしまったのです。私は、一生懸命教えてくださる先生のためにいつも勝ちたいと思っていたので、精神的に負けてしまう事がとても悔しく、今まで何も考えずにテニスをしてきた自分を情けなく感じました。そこで私は親元を離れ、甘えの通用しない体育会テニス部に入り、今までの自分を改め、どんな事にも負けない人間になろうと思ったのです。

大学では、先輩方のがんばっている姿が、「自分もがんばろう。」という気持ちにさせてくれて、その度に、「自分一人では強くなれないのだ。」という事を実感します。このようなよい環境の中で、自分のことを常に客観的に見る事ができる目を養いもっと視野を広める事ができたらと思います。そして技術面だけでなく、精神的に強くなり、強くしようと御指導してくださった先生や先輩方のためにがんばろうと思います。

経済学部　経済学科
一年　**小林めぐみ**

大学に入るまでテニスをしたことがなかった私が、体育会テニス部に入ることを決めた理由は大きく分けて二つあります。

まず一つに、私は以前から体を動かすことがとても好きだったからです。そのため、これまで様々なスポーツをしてきましたが、テニスは興味があったにもかかわらず、なかなかやる機会にめぐまれず、いつかやってみたいと思っていたスポーツでした。そして大学に入り、たまたまテニスをやる機会にめぐまれ、これを機に新しいスポーツに挑戦しようと思いました。

もう一つの理由は、自分の生活の中心となるような目標が欲しかったからです。私は中学・高校時代を勉強中心に過ごし、大学に合格したことで自分の中の一つの大きな目標が達成されてしまったために、長い間自分の生活の軸となっといたものがなくなってしまい、さぁ、これからどうしようかと考えあぐねていた時に、たまたまテニス部に勧誘されました。そして、それぞれの目標に向かってひたむきにがんばっている先輩達の話を聞くうちに、自分も、こうして生き生きと生活している先輩達の仲間入りをしたいと思いました。そして、この出会いを機に、思いきって今までやってみたいと思っていたスポーツを中心にした生活をしてみようと思いました。なぜサークルではなく体育会に入部したかという理由もそこにあります。中途半端な気持ちでではなく、一つのことに向かって全力で取り組んでいく中にこそ自分の生活の支えとなるような新しい目標が見つかると思いました。

そして今、テニス部の一員として二部昇格というチームとしての大きな目標を持つことができました。これから、春に向けて他の仲間たちと力を合わせ二部昇格を勝ちとりたいです。

立教大学体育会テニス部女子名簿

学年	学部	学科	役職	氏名	出身校	〒	住所	☎
			副部長	船田　正之		169	新宿区高田馬場４－36－20	03-3368-8103
			監督	広瀬　勝蔵		180	武蔵野市吉祥寺北町１－27－３	0422-22-4000
			コーチ	鈴木　康正		104	中央区佃２－２－10－1709	03-3533-9035
			コーチ	大塚　直人		184	小金井市前原町１－10－20	0423-88-0902
			コーチ	松村　隆司		132	江戸川区東小松川２－26－９－404	03-3674-2751
4	社	社		柳　玲子	南山	188	田無市向台町４－12－30 クオリティ峰208	03-3988-7473
	法	国比		戸澤　愛	白百合	156	世田谷区桜２－10－15	03-3426-3843
	文	独文		武田　理恵	関東国際	156	世田谷区松原２－29－６	03-3324-2597
3	文	日文		庄司　友子	豊島岡	338	浦和市太田窪3098	048-883-6558
3	文	日文	主将	吉田　涼	都立立川	207	東大和市立野３－1293－10 グリーンタウン３－210	0425-62-0828
	社	観	主務	星野　薫	山梨学院	114	北区中十条３－31－４ シャンポールサカエ202	03-3900-8099
2	法	国比		岩本　美幸	常総学院	207-11	我孫子市布佐平和台４－９－15	0471-89-4936
	法	法		畠中　暁子	仁愛女子	171	豊島区目白５－28－２ グレース目白201	03-5996-2775
1	法	法		尾又明日香	岡谷南	171	豊島区長崎２－３－11 レジデンス椎名町301	03-3959-2987
	済	済		小林めぐみ	日出学園	273-01	鎌ヶ谷市中央２－16－12	0474-46-0111
	文	教		増田ちえり	立教女学院	177	練馬区石神井台４－１－３－1007	03-3928-5655
	法	法		山崎真由美	高知	203	東久留米市浅間町３－23－３ ロジング武蔵野	0424-24-4948
	文	英米		吉田真理子	東葛飾	277	東葛飾郡河南町大津ヶ丘３－43－18	0471-91-3244

平成８年度 年会費 ありがとうございました。

（１１月２０日現在）

卒年　ＯＢご氏名　（敬称略）

21　田中　誠
22　堀口直大
23　清　隆彦
25　河野英彦　五味淳芳　山本　実
26　迫　哲夫
27　一条正志　岸本駿二　橋本幸信
28　小倉　宏
29　森崎貞男
30　内河　功　向井昌男
31　森　恵
32　改田　雄　小宮山和知　鈴木有恒　立花雍一　辻本正司　永山勝三　宮岸　武
33　飯島一雄　川上　岳　高本佳一　藤林勇雄　矢部治道
34　青山　毅　飯郷七朗　井田悦夫　井上隆二　小笠原潤　小田原正直　金田藤正　瓦林聖児　副島光彦　丸山悌雄
35　青木久雄　高坂英順　河内　進　斎藤俊介　鷲見桂一　竹村郁男　仲井一浩
36　拓殖銑次　山中博司
37　安達正純　安部直之　河野貞夫　粟田進伍　小西一三　高橋　洋　鎌田秀雄
38　合瀬武久　近藤紘二　下村直史　田口雅一　西宇明男　橋本　宏　広瀬　武　松波幹忠
39　石黒　潔　伊藤正信　河内　潔　唐沢靖治　高橋道男　玉置秀雄
40　井上詔夫　末藤朋昭　田口壮治　南部浩史　平井克忠　広瀬省蔵　藤原正勝　町田昭雄
41　川口隆史　木口久仁彦　稲葉介靖　深尾昌利
42　倉光　哲　出口誠之　豊田資朗　昇　文彦　漓野公哉　原田正明
43　有馬八郎　大石正光　佐藤俊彦　沢松忠幸　三浦允行　若杉正明
44　志田充顕　占野靖宗　須田健治　富田次郎
45　朝倉伸行　上野城太郎　宇野　治　佐藤雄三
46　笠原賢次郎　日高啓吾　宮下好人
47　安達幸男　加藤雄一　若井新司
48　内原康雄　清水春海
49　浅見　豊　今井広幸　鈴木　明　鈴木徹雄　武藤憲二　八木澤恭司
50　井畑　清　梅田憲司　大里有二　立野公一　中島幸彦
51　佐藤信夫　鈴木一広
52　石上富一　鈴木　宏
53　井筒浩平　高橋良隆　鷲田典之　山下哲夫
54　秋元英晴　岩立文雄　角野俊平　加倉井　理　久保勝延　鈴木康正　潤田雅之　原田　豊　渡辺　薫
55　大塚直人　金原　厚　松村隆司
56　岸本　誠　竹石敬之　谷口秀治　早川寿美　細田　寛
57　伊藤久幸　坂井邦夫　高橋宏幸　田鍋文啓　平山　元
58　井上勇人　上杉信久　大井洋隆　庄野俊夫　染谷孝幸　竹下喜六　田淵浩史　籏　栄一郎
59　阿部弘行　藤井孝信
60　江川裕雅　笠原康司　沢井清隆　藤原誠之　高橋守種　横山　浩
61　石川　順　大岡史直　佐藤昭一　山田彰彦
62　牛込耕二　柴原公博
63　上杉　佐　最賀智正　鹿浜哲也　新谷守夫　高山和則
H1　青山貴志　武市広治　中島宏誌
2　木村達彦　小島敏正　昆野　敦　篠崎享史　白寄誠爾　田中周作　東樹秀明　山田　昇　渡辺正和
3　河村準哉　多田比呂哉　丹司　均　戸田雅道　平井智武　柳内　崇
4　足立充生　増田哲也
5　片岡　聡　深澤伯亮　保泉　敦
6　後藤　孝　二塚圭介
7　青崎啄也　太田　治　小俣光司　酒本大輔　中川孝博　中村純也　羽鳥貴也　宮本匡彦
8　河村貴史　保戸塚哲也　山崎雄一郎

卒年　ＯＧご氏名　（敬称略）

36　木暮和枝　野田昌子　八木下紗絵子
37　森　聿子
38　松平紀代
39　笹山俊子
40　菅原弘子
41　松田弓子
42　杉沢小百合
43　阿部喜子　大倉田鶴子　片山康子　斎藤裕美　林田千史　吉川加代子
44　石谷こず枩　星谷久美
45　木本美代子　倉科鈴恵　長浜町子　古庄篤子
46　小埜睦美
47　伊藤美枝子　天野千晶
50　穐山陽子　飯塚圭子　植田多美江
52　吉川裕子
53　小泉恵子　小場喜子　高橋博子　福田佐智子　山下実果　吉原典子
54　加島美名子　佐々木恭子　戸松まさみ　村田由子　山田優子
55　黒坂美也子　杉沢　薫　ダン千里　福島由起　山下節子
57　厚美　緑　大久保直子　坂井裕美
58　森川真実
59　稲田葉穂子　後藤悦子　篁　典子　前田真佐子
60　永田良子　服部敦子　藤原亜美
62　内山麻里　那須真理子
63　石島裕子　小河原玲子　平田　恵
H1　加藤尚子　川林智子
3　金丸聡子　近藤和子　中嶋澄子
5　浅場恵美　川上万里子
6　榎本まゆみ　吉川明見
7　藤井智子
8　笹川友紀　鈴木麻衣　横田陽子

文学部　教育学科　一年　増田ちえり

私が立教大学硬式テニス部に入部するに至るまで、個人的に部員の方と連絡を取り、何度か練習に参加させて頂きました。そもそも、私は大学入学が決定した後、学問の他に何か一つ自分なりに成し遂げたと思える活動をしたいと考えた末、肉体的に盛りである十代、二十代に、大いに体を動かそうではないかと思い、スポーツ系の活動をしようと考えました。私は幼少の頃よりスポーツが好きで、今までに様々なものにチャレンジしてきましたが、やはりやるからにはそれなりの実績を残したいと思うのが正直なところで、そのことを含めて、最終的にテニスの道を選びました。ところが、大学には同好会と体育会と大きくわけて二つあるわけですが、大学入学前に、体育会の練習を見学した折、部のテニスに取り組む姿勢と雰囲気が大変気に入ったことと、精神的な面を厳しい練習において鍛えたいという理由で体育会を選択しました。

これからの抱負は、今年は一年生が五人に対してその他先輩方が四人という大変少人数の部でありますので、その少なさを感じさせない為にも、常に盛り立て役になっていきたいと考えております。そのためにも、怪我や病気をしないように自己管理を怠らないように心掛けていきたいです。個人的には、精神的な強さを養っていきたいです。テニスの面においては、部の先輩や同輩の良い面をどんどん吸収して、いち早く関東学生に上がれるようになりたいと思っています。立教大学硬式テニス部としては、まず来年の関東リーグ戦にて、全勝で二部に昇格することです。これらを目標に頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

法学部　法学科　一年　山崎真由美

「テニスをやりたい」このように考え始めたのは、高校入学時の頃でした。私が進学した高校は、県下でも専ら強いと有名でしたので、「自分にもチャンスがあるかもしれない」と思い、テニス部に入部しました。

私が立教大学体育会硬式テニス部に入部した理由の一つとして、高校生活の三年間で得たもの（石っころ）を磨き、ダイヤモンドにしようと決意したことがあげられます。本学体育会硬式テニス部には、すばらしいコーチをはじめ、現在大きく活躍中の先輩方がいらっしゃるという事を耳にし、ぜひ、テニスを教えて頂きたいと、真剣にテニスを見直したいと思いました。このように前向きな考え方でいられるのも、あっという間に過ぎ去ってしまった高校三年間を振り返り、「何かやり残している」と思えたからです。中途半端な気持ちを引き伸ばしてしまったからでしょう。やり残した事、それは全国大会を見学する度に明らかになっていったように思えます。全国レベルの層の厚さを痛感し、力の差を見せつけられ、自分の技術のなさ、体力のなさなどに愕然としてしまいました。このような私の思いも、入部理由の一部です。

これからの抱負は、主に来年の関東リーグを年頭に置きたいと思います。なんとしてでも、二部昇格を狙いたいです。そのためにも、キャプテンである涼先輩を助け、レギュラーが集中して試合を行えるよう、一年である私達で、雰囲気を盛り上げていこうと思います。個人的には、一日一日の練習を意義あるものとし、長時間でも集中力のとぎれない選手になりたいと思います。これからの四年間、やり残すことのないよう精一杯頑張ります。

よろしくお願いします。

文学部　英米文学科　一年　吉田真理子

大学に入学してからしばらくの間、私は自分の居場所がみつからないでいました。そして、大きな大学の中での自分という存在は、とても小さいものだと痛感し、大学に行くのが怖くなっていました。そんな時、部活の先輩が勧誘の電話で「うちの部活は人数が少ないから一人一人が大事だ」とおっしゃいました。その言葉は、今まで自分の中でモヤモヤしていたものを一気に吹き飛ばしてくれました。「この部活に入ればきっとこの不安から救われる。」ととっさに感じた私は、さっそく練習を見学に行くことにし、しばらくして入部しました。

しかし、不安がすぐになくなることはありませんでした。先輩がおっしゃった言葉はまさにその通りでしたが、一人一人が背負う責任というものは自分の想像以上でした。楽をしようと思えばできてしまう大学生活をしばらく経験してしまった私は、この生活のギャップに戸惑いを感じました。体力的にも劣っており、練習についていけずまたも大学に行くのが怖くなってしまいました。それでも辞めたらまたあの虚無感にさいなまれる、という一種の恐怖感によって、なんとか続けていくことは出来ました。今ではその頃よりも心にゆとりができ、テニスをしていることが楽しいと感じられるようになりました。

これからは、もっとプレー中にはプレーのことを考えて集中するようにしたいと思います。最も基本的なことですが、今までは自分の目の前にせまってくることを次々に処理していくことだけで精一杯でした。もっと先を見通し、周りにも目を向け、耳を傾けて、自分のこと、プレーのことを客観的に考えていけるようにしたいと思います。考えたプレーができるようになること、それが今の目標です。

●製紙原料問屋（製紙会社直納）　●機密文書処理受託　●ダンボールケース・紙袋
●ワンウェイ弁当箱（オリジナル）　●その他、紙製品全般販売

株式会社 オリエント紙業

本　社／〒171 東京都豊島区千川２－18－２
TEL 03-3973-9912㈹　FAX 03-3973-9914
出張所／〒243-03 神奈川県愛甲郡愛川町中津6941
TEL 0462－85－3842

〈57年卒　伊藤　久幸〉

特殊電線製造販売
UL・CSA 認可工場
愛三電線工業株式会社

本社・工場 〒335 埼玉県戸田市南町５番10号
電話 代表 0484 (44) ２３００番
FAX 0484 (44) ２３０２番
東京連絡所 〒113 東京都文京区湯島３丁目７番７号
電話 東京 (3832) ０６６４番

〔昭和54年卒　原田　豊〕